

「戦争立法」 憲法9条を全面破壊

米の戦争に地球の裏まで

安倍政権がすすめる「戦争立法」は、世界中で米国の戦争に参加・支援する法制、憲法9条の全面破壊です。「海外で戦争する国」に「2つの道」で踏み出すものです。



米海兵隊との共同演習で射撃訓練をする陸上自衛隊員（米海兵隊ウエブサイト）

戦争への第1の道 「戦地」まで行って軍事支援

米国が世界のどこであっても戦争を始めたら、自衛隊が「戦闘地域」にまで行って軍事支援をするものです。これまでの▽戦闘地域には行かない▽武力行使はしない—の二つの「歯止め」を取り外し、戦地での米軍支援を可能にします。さらに重大なのは、米軍兵士などの「捜索・救出」は「戦闘現場」でも活動を継続すること。「殺し殺される」危険が飛躍的に高まります。

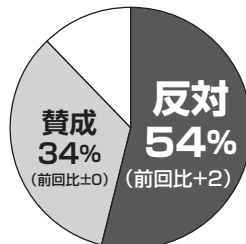
戦争への第2の道 無法な侵略戦争にも参戦

日本への武力攻撃がなくても、集団的自衛権を発動し、自衛隊が海外での武力行使に乗り出すものです。大問題は、集団的自衛権の発動は、ときの政権の判断で、無限定に広がることです。ベトナム戦争のようなアメリカの無法な先制攻撃でもあっても、「個別具体的、総合的に政府が判断する」（安倍首相）と、発動を否定しません。そうなれば「集団的自衛」でなく「集団的侵略」です。

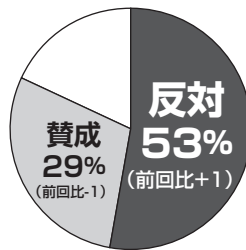
「戦争立法」で自衛隊はこんなことが可能に

- グレーゾーン** 米軍など他国艦船の防護ができる
- 後方支援** 米軍の戦争をいつでも、どこでも支援できる
「捜索・救助」は「戦闘現場」でもできる
- PKOなど** 「任務遂行」のための武器使用ができる
- 集団的自衛権** 「新3要件」を満たすと判断すれば、日本に対する武力攻撃がなくても、米国の戦争に参戦できる
米国の先制攻撃戦争にも参戦できる
- 在外邦人救出** 武器使用を伴う救出ができる

今国会成立、過半数の反対



「毎日」4月20日付



「日経」4月20日付

安保法制

「とんでもない暴挙」「大きな過ち」

自民党幹事長経験者の野中広務、古賀誠両氏は、安倍政権がすすめる集団的自衛権行使

野中氏「自衛隊を海外に出し、活動範囲を広げたら必ず戦死者が出る」「大変大きな過ちを犯そうとしている」「本当に戦後70年は何だったんだと。悔しくて悔しくて、夜も寝られないほど悔しい」



古賀氏「集団的自衛権の議論から大きく踏み越えている」「『限

自民党元幹事長 野中・古賀氏が批判

容認の安保法制の与党合意について「とんでもない法制化」「暴挙」などと強く批判しています。

『と議論してきたが、とんでもない法制化がすすめられようとしている』

「自民党の先生方、なんで黙っているんだ。良質な保守派がいっぱいいるはずだから、ここで声を出さなければ日本の平和はどうなっていくのか」（TBS番組「時事放談」、3月29日放映）

